

杉山小学校の ESD 活動

<活動の概要>

- ・環境への意識を高め、地域の「もの・ひと・こと」に関わる活動を通して、地域が好きになり、「杉山」と関わる子を育む。
- ・具体的には、地域と学校が協力して開催する行事や総合的な学習の時間・生活科の時間を柱に、①地域の環境や伝統文化、文化遺産に関わる活動、②地域社会に関わる学習、③防災に関わる学習を行った。

・活動の実際

① 地域の環境や伝統文化、文化遺産に関わる活動 (全校児童)

本校では、毎年10月に地域と学校が協力して「杉山グリーンウォーク」を開催している。この行事は、校区の自然環境や文化遺産などを見ながら巡るものである。杉山校区を歩き、校区の現状を再確認し、よさを再発見することを目的としている。

子どもたちは、4つのコースから毎年異なるコースを1つ選び、汐川干潟や豊橋名木100選のホルトノキ、寺や神社、農園や牧場など、地域の環境や文化遺産について、家族でゴミ拾い(530活動)を行いながら歩いてまわる。当日は地域の多くのかたがたがボランティアとして協力し、章南中の生徒もボランティアとしてチェックポイントの運営に参加した。



「杉山グリーンウォーク」

杉山校区を知り、地域のひと・もの・ことを繋ぐ、大切な活動になっている。

② 地域社会に関わる学習(2~5年生)

地域のボランティアや施設の協力のもと、子どもたちは学習を行った。

2・3年生は、「おいも先生」や「農業ボランティア」のかたにサツマイモやスイカ、野菜の育て方を教わり、栽培や地域のよさを理解した。

4年生は、地域の環境学習に取り組んだ。汐川干潟で環境や生き物を観察したり、「杉山地域保全隊」と一緒に七股池の草取りを行ったりして、校区の環境を守る活動をした。

5年生は、福祉の面から地域を考えた。赤ちゃんや保育士やお年寄り、カウンセラーなどのかたと関わりながら、地域に幸せを広げる活動を行った。



4年「汐川干潟の観察」



5年「お年寄りと花の種をまく」

③ 防災に関わる学習(6年生)

杉山校区には、津波発生時の避難施設として「天津防災センター」があり、校内には防災倉庫が設置されている。過去の地震被害や対策、災害発生時の適切な行動や避難所生活のための備えを調べ、避難所開設や備蓄品について、防災危機管理課のかたから学んだ。

自分や家族が避難生活を行うなら、何が必要かという視点で防災グッズを考え、実際に生涯学習センターに避難し、避難所を開設する体験を行った。自分の命と地域のかたの命を守るために何ができるか、考える活動を行った。



6年「生涯学習センターで避難所開設」